

4 段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
--------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	笑顔と思いやり、意欲あふれる永久津っ子の育成 ～ 学校・家庭・地域が一体となって 148 年の絆をつなぐ ～
--------------	---

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な 数値目標等	具体的な取組 【学びたい度 90% (R2 70%)】	自己評価		結果の考察・分析および改善策
				取組別	総合	
知育	【目標】学力向上 (子どもの将来を見据えて今の学びを考える) ◎ 児童主体の「楽しく」「分かる」「できる」授業をめざし、これからの社会の変容を意識し、児童の将来を見据え責任をもった学習指導を展開することによって、学力のさらなる向上を図る。 【手段・具体的な取組】 1 主体的・対話的で深い学びの創造と確実な振り返り 2 職員相互の認め合いと学び合い 3 立腰指導の徹底と基本的学習習慣の定着 4 家庭学習習慣の定着と放課後子ども教	1 について ・「わかる」まで教え、できるまで「見届ける」授業	1 について (1) 職員研修 (主題研) にて、本校の目指す授業像を設定する。 (2) 日々の授業改善及び授業力向上を図る計画的な研修を行っていく。(年間 17 回)	3	3	1 について ○ アンケート項目「2」「3」から学習への参加度・理解度に対して肯定的な児童が多いことが分かる。「あてはまらない」と回答している児童もいることから、今後も更に実態把握に努め、授業中に全員が楽しく学習に取り組めるように授業を工夫改善していくとともに「個別の配慮」を行っていく必要がある。
		2 について ・年間 1 回以上の授業公開 ・CRT 前年度比 3% アップ	2 について (1) 一人一研究授業を年間計画に位置づけ、授業公開を行う。 (2) 職研修 (主題研) で、昨年度の CRT 学力調査結果を分析し、各学年の実態を明らかにする。 (3) 各学年の実態に応じた研究内容を決める。	3		2 について ○ アンケート項目「2」「3」から学習への参加度・理解度に対して肯定的な児童が多いことが分かる。「あてはまらない」と回答している児童もいることから、今後も更に実態把握に努め、授業中に全員が楽しく学習に取り組めるように授業を工夫改善していくとともに「個別の配慮」を行っていく必要がある。
		3 について ・児童の自己評価 (立腰) 80% 以上 ・鉛筆の正しい持ち方 80% 以上	3 について (1) 日々、定期的に指導、チェックを行っていく。	3		3 について ○ 児童の回答・教職員の回答から、改善すべきポイントがあると感じた。教職員は日々の授業の中で声かけを忘れずに行っていくとともに、正しくできている児童を賞賛し、習慣づけていく必要がある。

	室との連携強化	4について ・家庭学習の実態調査による定着度の個人評価 80%以上	4について (1) 日々、定期的に指導、チェックを行っていく。	3		4について ○ アンケートの回答結果から、全体的によく取り組むことができています。
	5 タブレットPCの効果的な活用による学力の向上	5について ・タブレット活用(週当たり2回以上)	5について (1) タブレットをいつでも活用できるように、保管庫も教室に設置し、タブレット活用の充実を図る環境を整える。 (2) 学習の手助けとなるように、タブレット活用のきまりを作成し、児童が正しい使い方を身に付けるようにする。 (3) GIGAスクールサポーターとの連携を図り、効果的なタブレット活用の充実を図る。	4		5について ○ 教職員の回答から、高い頻度で授業中に活用できているといえる。普段の授業に活用しやすい環境作りができています。今後はより効果的な活用について研修を深め、実践の蓄積・整理を進めることで、本校児童の学力の向上につなげていきたい。
	【目標】豊かな心の教育推進 (生徒指導3機能生かした認める指導と体験活動の充実) ◎ 道徳や特別活動、こすもす科との関連を踏まえた体験活動の推進による、豊かな感性と思いやりの心の醸成。	1について ・学校支援ボランティア活用 年間350人	1について (1) 地域コーディネータとの連携をとる。	3	3	1について ○ 外部講師や地域の方々を積極的に本校へ招き、児童の心の成長につながるより豊かな体験活動を行うことができた。(米作り、昔の遊び、かくれ念仏洞の話、新聞づくり、ワクチン接種について、食育ここやと小林のシェフ等) ○ 学校支援ボランティア 458名(3月末)
		2について ・きまりやルールを守ろうとしている児童の自己評価100% ・基本的な生活習慣に関する中学校との共通実践項目に関する児童の自己評価80%以上	2について (1) 挨拶指導 集団登校 集団下校 (2) 避難訓練 (避難経路確認 風水害 地震 火災) (3) 雨の日の過ごし方 (4) 栽培活動 (5) 教育相談	4		2について ○ 基本的な生活に関する指導(さわやかなあいさつ、廊下歩行、清掃、ボランティア活動等)について、重点的に指導を行ってきた。あいさつについては、児童の意識も高まりつつあるが、個人差があるので個に応じた指導(名前を付けてのあいさつ)を継続していきたい。廊下歩行についてや清掃への取り組み

	<p>【手段・具体的な取組】</p> <p>1 自己を見つめ、多面的・多角的な見方を育む道徳科の推進</p> <p>2 基本的生活習慣の意義を考えさせる指導と定着の推進</p>		<p>(6) 縦割り清掃 清掃指導</p> <p>(7) クラブ・委員会活動</p> <p>(8) 挨拶指導 清掃指導 ごみの分別指導</p> <p>(9) 栽培活動への取組</p> <p>(10) 安全指導 廊下歩行への指導</p>			<p>への指導は今後も継続して指導していく必要があると感じている。</p> <p>○ 毎週月曜日の業前の時間に、地域ボランティア（永久津お話の会）の方々による読み聞かせを実施している。児童も大変楽しみにしており、今後も継続して取り組んでいきたい。</p>
		<p>3について</p> <p>・年間一人100冊以上の読書量</p>	<p>3について</p> <p>(1) 図書支援員と連携し、委員会活動での呼びかけを行う。</p>	3		<p>3について</p> <p>○ 学校図書館協力員が、児童の図書貸出や図書館設営等を行っている。新刊図書を工夫して紹介するなど、児童の読書意欲を高める工夫を行ってきた。</p> <p>年間貸出冊数 1人 147冊（2月末）</p>
	<p>3 日本一の読書県宮崎の推進</p>	<p>4について</p> <p>・新聞投稿年間100本</p>	<p>4について</p> <p>(1) 授業や週末課題等で作成した作文等を新聞に投稿する。</p>	4		<p>4について</p> <p>○ 年間を通じて、各学年で学校行事や各教科で取り組んだ作品を投稿できた。</p>
	<p>4 社会に関心を持たせる新聞活用の充実</p>	<p>5について</p> <p>・児童アンケート「やさしくしている」85%以上</p>	<p>5について</p> <p>(1) 集会等での命の大切さや、思いやりに関わる話</p> <p>(2) IF委員会 教育相談</p> <p>(3) 縦割り清掃</p> <p>(4) 栽培活動</p>	4		<p>5について</p> <p>○ 命の大切さについて考える集会や人権や思いやりについての話を放送や各学級の学級指導の中で実施した。どれも児童だけでなく、保護者へも発信していく取り組みとなり意義あるものとなった。児童会と6年生のシトラスリボンへの取り組みは人権意識の高まりにとどまらず児童の今後の自信にもつながった。</p>
	<p>5 集会等による命の教育と心のふれあい推進</p>					
<p>体育</p>	<p>【目標】健やかな心体の育成 （生きる力の元となる健康・体力を意識して）</p> <p>◎ 体力向上プランを意識した授業・体育的</p>	<p>1について</p> <p>・マスク・手洗い・手指消毒・密の回避</p> <p>・感染症予防に気をつけている児童の自己評価100%</p>	<p>1について</p> <p>(1) 手洗いやマスクの着用について、放送で呼びかけを行う。</p> <p>(2) マスクや検温を忘れた児童には、その都度指導する。</p> <p>(3) 保健便りによる啓発を行う。</p>	3	3	<p>1について</p> <p>○ マスク忘れは、同じ児童が何度ももらいに来ていた。その都度、家庭から持参するように指導した。</p> <p>○ 感染拡大時には、保健便りで啓発を行った。</p>

	<p>行事・日常の体育的活動を通して、基礎体力の向上と健康的な生活習慣の定着を図る。</p> <p>【手段・具体的な取組】</p> <p>1 新しい生活様式の徹底</p> <p>2 体力・運動能力の向上</p>	<p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト分析による改善方法の策定と実践 ・陥没種目の3%向上 	<p>2について</p> <p>(1) 体力テストの結果、特に上体起こし、長座体前屈、反復横跳びについては、全国平均を下回っている学年が多いことが明らかになった。(R3結果より)</p> <p>(2) 陥没種目については、体育の授業や体力向上週間を活用して、向上を図る。(3%アップ)</p> <p>(3) 休み時間等に運動に親しむことができるような環境を整えたり、家庭でも体力向上に関する取り組みを紹介し、体力向上を促すようにする。</p> <p>(3) 体育科の授業力向上については、研究授業など他の学年の授業を見る機会を増やしたり、小林市内の体育専科を活用して授業力向上を図るようにする。(自己評価：75%)</p>	3	<p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体力テストで落ち込みがみられた2種目(長座体前屈、反復横跳び)については、体育の授業等を活用して体力向上につなげる。 ○ 昼休みには児童が外で元気よく遊ぶ姿が見られた。遊具や道具をさらに活用させて運動に親しませていきたい。 ○ 授業力向上については、学年部で学習を進めたり、他の学年の授業を見る機会があったりと指導法を学ぶ場が多くあった。また、今年度は体育専科派遣事業の一環として体育専科教員が本校に派遣され、5学年の児童と学習を行った。
	<p>3 危険予知・回避能力の育成と地域・保護者との連携</p>	<p>3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や安全点検に関する教師の自己評価80%以上 	<p>3について</p> <p>(1) 毎月最初の清掃日に確実に行う。</p> <p>(2) 定期的、具体的な避難訓練を実施する。</p> <p>(3) 雨の日の過ごし方の指導を行う。</p> <p>(4) 日常の交通安全について指導する。</p>	3	<p>3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 想定外をいろいろな場合で予想し、反省点が多く出る避難訓練を行ったことは大変意義あるものとなった。常日頃から児童に危険予知の考え方ができるようにそれぞれの学年の発達段階に応じて指導できたことも効果的であった。 ○ 安全点検ではタブレットを活用し、作業の効率化が図られた。 ○ 児童の目線からも、危険箇所を把握する必要がある。

	4 保健指導の充実	<p>4について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭による歯磨き指導の実施 ・フッ化物洗口実践 ・むし歯治療率 80% 	<p>4について</p> <p>(1) 1、2年生へ歯みがき指導、未治療者への個別指導、保健便りによる啓発を行う。</p> <p>(2) 学校保健委員会での専門家による講演を行う。</p> <p>(3) フッ化物洗口を確実にを行う。</p>	3	<p>4について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1、2、5年生へ歯みがき指導を行った。未治療者へは夏休み前と冬休み前に個別指導を実施した。保健便りでは、6月4日の「むし歯予防デー」と11月8日の「良い歯の日」に合わせて啓発を行った。 ○ 児童の自己評価では、8～9割が食後の歯みがきを行っているが、4名が、あてはまらないと回答しているので、今後も、継続して指導していきたい。 ○ 学校保健委員会で、保健センターの保健師さんに講演をお願いしたことで、保護者への意識付けになったと感じる。 ○ フッ化物洗口は、先生方の御協力により、順調に実施できている。 ○ 現在の治療率は80.6%である。引き続き、未治療者への指導を行う。
	5 家庭・地域との連携	<p>5について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への協力 ・欠席0の日 100日以上 	<p>5について</p> <p>(1) 地域行事への参加を積極的に呼びかける。</p> <p>(2) 規則正しい生活習慣を身に付けさせることで、心身の健康を増進し、欠席を少なくする。</p> <p>(3) 欠席した場合は、担任から家庭へ連絡してもらい、欠席が続かないようにする。</p>	3	<p>5について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の協働体主催の行事等への参加をPTAと協力して呼びかけ、6割以上の参加者があった。 ○ 保健便りや、掲示物等で啓発した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任の先生方が、欠席者へ丁寧に対応していたので、長期欠席はいなかった。 ○ 2/28現在 欠席0の日は115日 (出席停止、忌引き除く)

食育	<p>【目標】望ましい食習慣の育成 (食は生きる源)</p> <p>◎ 様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実現することができる基礎を育てる。</p> <p>【手段・具体的な取組】</p> <p>1 伝統的な食文化や食習慣を振り返る授業の展開</p> <p>2 食育指導の充実</p> <p>3 HPによる情報提供(今日の給食コーナー)</p>	1について	1について	3	1について
		<ul style="list-style-type: none"> 農業体験や食育の日と関連した家庭科授業の実施 学校支援ボランティアとの連動(芋・米・蕎麦) 	<p>(1) 中学校、地域コーディネータとの連携し、5年生は米作り、6年生はそばプロジェクトを実施する。</p>		<p>○ 地域の方々の協力を得ることで、児童にとって豊かな心を育成する体験活動を行うことができた。(米作り、蕎麦プロジェクト) 今後も計画的に進めていきたい。</p>
		2について	2について	3	2について
		<ul style="list-style-type: none"> 給食に関する児童の自己評価80%以上 養護教諭による食育指導(全学年で実施) 食育の日3回、チャレンジクッキング2日実施 	<p>(1) 苦手な食材にも取り組めるように、全学年で食育指導を行う。</p> <p>(2) 給食時間に食材のクイズや豆知識を放送し、興味を持たせる。</p> <p>(3) 食育の日には、取り組みの様子をホームページでお知らせし、意欲を持たせる。</p> <p>(4) チャレンジクッキングは、提出された物を掲示することで、児童同士でお互いを認め合い、意欲を高める。</p>	3	<p>○ 栄養教諭を招いて、食育授業を行ったり、保健、家庭科の食事に関わる部分の授業に入らせて頂いた。家庭科は1月に実施した。</p> <p>○ 給食時間のクイズを、委員会の児童に作ってもらうことで、委員会の児童の意識付けにもなった。</p> <p>○ 児童の自己評価では、8～9割が好き嫌いせずに給食を食べている。</p> <p>○ ホームページは活用できなかった。3月の食育の日には活用したい。</p> <p>○ チャレンジクッキングは、楽しんで取り組んだ様子が見られた。他の児童のものも、よく見ており、「すごい」などと話していた。</p>
		3について	3について	3	3について
		<ul style="list-style-type: none"> HPによる情報提供(毎日) 	<p>(1) HPへ毎日掲載</p>		<p>○ 毎日の給食をHPに掲載した。</p> <p>○ 食育に関する学習や取組をHPに掲載し発信できた。</p>

次年度の方向性についての校長所見	<p>本年度は、with コロナの考えのもと、保護者や地域の協力を得ながら行事や取組を計画したり、ICTを活用した授業改善へも積極的に取り組んだりすることで、教育目標の達成に向け努力した。次年度は、学力向上に向けICTの効果的活用を模索し、危機管理を高めながら、安心・安全な学校づくりに努めたい。</p>
------------------	--

